意味構築学

目次＋序章（一部抜粋）

【目次】

序章　意味構築学とは何か――設計する知、編集する知
第１節　AI 時代、人間に残された力とは
第２節　「情報」ではなく「意味」を読む
第３節　構築とは何か――設計・編集・意味の交差点
第４節　編集工学から意味構築学へ
第１章　読む力――構造を読み、文脈を読む
...（以下略）

序章　意味構築学とは何か
―― 設計する知、編集する知

第１節　AI 時代、人間に残された力とは

AI の進化が、かつてない速度で私たちの日常に入り込んできた。
問いかければ即座に返答するチャット AI。数秒で画像を生成するアプリケーション。
動画編集、作曲、プレゼン資料の作成まで代替しはじめる生成 AI――それらはもはや一部の専門領域だけにとどまらず、学習、創造、判断といった知的活動のあらゆる場面に侵入しつつある。
この変化は単なる技術革新ではない。
〝考える〟〝選ぶ〟〝伝える〟〝表現する〟といった、人間の知性の根幹――すなわち意味を生み出す力にまで、AI が模倣の手を伸ばし始めているという事実に、私たちは向き合わざるを得なくなっている。
たとえば、物語を書かせてみよう。AI は整った文法で、美しく流れるような文章を瞬時に生成する。事業計画を頼めば、市場動向を踏まえた精緻な構成案が返ってくる。学術的な要約から広告コピー、キャッチフレーズまで、さまざまな領域で〝人間よりも速く、整った成果〟を出すように見える。
――だが、そこで私たちは立ち止まる。
〝その文章には、意味があるのか？〟
〝心が揺さぶられたか？〟
〝その言葉は、誰かの切実な経験に根ざしていたか？〟
AI がつくる文章は、たしかに情報として整っている。だがそこには、文脈に根ざした背景も、読み手の人生に食い込むような感触も、誰かと共鳴するための身体性もない。
情報はある。しかし意味がない。
この〝空白〟こそが、本書が扱う〝意味構築力〟の出発点である。
意味とは、情報の羅列ではない。情報と情報のあいだに流れる文脈のなかから立ち上がるものだ。

（※この先は、書籍本編にてご覧いただけます）

📘　**『意味構築学――構造を読み、文脈を設計し、意味を編集する技法』**
2025 年 8 月 30 日 発売開始
著者：佐藤 将（Masaru Sato）
出版社：ＡＥＣ出版